

(令和2年12月14日)

< ワンポイントレッスン (実践) >
(マーケットタイミング指標・その5)

マーケットタイミング指標、今回は最終回、その5「信用取引評価損率」についてです。信用取引に伴う評価損率は、当然のことながらディスクローズされていないので推計することになります。経験則として、かなり確率の高い天井圏での指標として使っています。

あまりシグナルが出ることはありませんが、信用取引評価損率がマイナス(評価益が出ている状態)になると、強度の過熱・天井圏、3%以上の評価損率を通常の警戒ラインとしています。(ちなみに、2000年以降で信用取引評価損率がマイナスになったのは、週次ベースで19回。高い順では、アベノミクス2013年1月25日▲4.45%、同13年5月10日▲3.68%、同06年1月6日▲3.13%など、いずれも週末日付ベースです。

「評価益は、短期間に実現益に…、そして評価損となった取引は残される」という投資家のトレードの習性?によるものかは、わかりませんが有効な指標であることは確か。直近では、18年1月12日(週末日付)の3.62%があります。

(信用取引評価損率)

